

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム にこにこだいとう

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372700641		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホーム にこにこだいとう		
所在地	〒029-0431 岩手県一関市大東町猿沢字板倉60-1		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご家族様や職員の協力の元、集団感染も無く事業を行えています。地域活動は自粛している状態ですが、例年に做って行事や誕生会などには注力しています。利用者様のADLは平均にして高い為、日常生活の中で大いにお手伝いや日課など活躍しており、やりがいを感じて頂いております。5類化に伴い、経過を確認しながらではありますが少しずつ外部での活動も再開に向けて検討しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧国保診療所の建物を改修して開設され、隣接して新しい国保診療所がある恵まれた立地環境にある。2階建ての1階が同法人が運営するデイサービス事業所で、グループホームは2階に設置されていることから、行事や不測の事態への対応などで協力・連携することができるようになっている。コロナ禍で様々な行動制限があるものの、スマホで「LINE」を活用した家族の方への情報伝達、情報共有のほか、オンライン動画研修サービスを活用した各種職員研修を行うなどの工夫も行っている。運営推進会議の開催や災害対応についての課題にも積極的に取り組む姿勢があり、さらに、認知症デイサービスの開始にも意欲的であることから、管理者のリーダーシップの下、職員が一体となって介護支援の一層の充実が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念をもととして介護に取り組んでいる。グループからの研修動画やzoom会議にも積極的に参加している。	事業所開設時に定めた理念を継承している。利用者にとっての家庭であることを大切に、これまでの家での生活を基礎に、笑顔で暮らすことのできるよう支援を行っている。職員の認識に多少の濃淡があり、更なる意識の高揚に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍での影響で昨年に続き外部との交流は出来ていない。5類化されたことで昨年よりは様々なお誘いは頂いているが慎重に対応している。	新型コロナウイルスの5類移行に伴い、地域の運動会の案内などをいただいているが、今のところ参加は見合わせている。小学校の長期休みに開設する学童保育には、職員の子弟と地域の子供たちが集い、利用者にとっても子どもたちの様子を見ることが良い刺激になっている。近隣からの野菜等の差し入れもあり関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流は運営会議資料の送付のみとなっているが昨年は管理者の交代の際に確認不足から回数が不足してしまった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議自体の開催はせずに資料送付を行っている。状況を見て開催を再開したいと考えている。	運営推進会議は2ヵ月に1回、近況報告などの書面送付に留まっている。感染症拡大に慎重に対応する結果であり、通常開催のタイミングを見据えている。委員は地域包括支援センター職員と地域住民代表3名で構成されている。	会場に工夫するなど集合形式の開催に努めるとともに、地域の民生委員、防災関係の有識者を委員に加えることも検討するよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者としての経験が少ないこともあり、広域行政組合さんや市の各担当課さんには、何度も聞いておりたくさんのアドバイスを頂いている。	市役所や支所、広域行政組合にはそれぞれ情報共有しながら必要な助言をいただいている。特に、開設を計画している認知症デイサービスについては、様々な相談にも丁寧に対応してもらっており、しっかりとした協力関係が形成されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	それぞれの事業所からの選出で立ち上げている委員会にて身体拘束に対しての勉強会や資料配布を行っている。施設での施錠は夜間のみで継続している。	法人としての指針が策定されており、年4回、法人参加の各事業所の管理者で構成される委員会が開催されている。身体拘束廃止に向け、アプリを利用した職員研修を活用し、個々人の受講記録を一覧にできる仕組みも活用している。口調が強くなるスピーチロックの防止のため、状況によってはその場で担当を替えることもある。利用者間のトラブル防止が身体拘束に繋がらないよう、予め席替えなどで配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	それぞれの事業所からの選出で立ち上げている委員会にて身体拘束に対しての勉強会や資料配布を行っている。施設での施錠は夜間のみで継続している。今年はジョブメドレーを活用している。 【評価項目7と8が同一につき、事業所での整理必要】		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの事業所からの選出で立ち上げている委員会にて身体拘束に対しての勉強会や資料配布を行っている。施設での施錠は夜間のみで継続している。今年はジョブメドレーを活用している。 【評価項目7と8が同一につき、事業所での整理必要】		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には心配事や不明点を説明し契約に進んで頂いている。また事前に見学がある際にはその時に説明を行っている。電話でも随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設へ来所する機会は少なくなっているが、受診対応時などの際にコミュニケーションを取らせて頂いている。	家族にはLINEを利用した連絡を行っており、必要な情報共有が素早的確に実施されている。家族からは、季節に合わせた衣類の調整をこまめにお願したいなど苦情等はなく、感謝の言葉が多い。これまでアンケート調査の機会が無かったが、テーマを決めて聞いてみることも検討課題の一つとなっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月業務ミーティングを開催しているほか、利用者のケアミーティングの際にも連絡事項など情報共有の機会を設けている。また定期的に個人面談も行っている。	ミーティング時に限らず日常の介護の現場で様々な意見があり、状況に応じた改善が行われている。実施予定の認知症デイサービスについても様々な意見があり、新たな業務負担にならないような配慮も検討されている。業務シフトの希望には可能な限り配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り要望に応じての勤務表づくりをしている。基本として希望休日の箇所は2日までとしているが、それ以上の予定を希望されている方がほとんど。希望に応える分、出勤できるところでは頑張ってもらえるように職員へ伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に伝達したり、情報の共有は行っている。グループの研修にも積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部と職員が関わる機会は少ないが情報の共有は随時行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報をもとに職員との情報共有と考えられる問題や課題についても検討して臨んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは特に連携を密とし、契約時には「私達と一緒に関わっていく気持ちを持ち続けて、家族だからこそできる部分は力を貸して頂きたい」と伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ケアマネ、主治医意見書を参考に、本人の変化に早い気づきができるように関わっています。		

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって負担のかからないように、無理のない範囲で他利用者とのかかわりを試みています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは特に連携を密とし、契約時には「私達と一緒に関わっていく気持ちを持ち続けて、家族だからこそできる部分は力を貸して頂きたい」と伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の散髪店の来所や保育園の訪問(ベランダから見学)は継続して行っている。	入居前に家族やケアマネから馴染みの人や場所を聴取しており、入居後も傾聴によって馴染みについて教えてもらっている。コロナ禍で友人などの来訪は無くなったが、隣接のデイサービス利用者が訪ねてくることがある。年賀状のやり取りがある利用者もあり、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入してのレクや談笑の場を設けています。手伝いや日課にも利用者様は積極的に取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してからもお会いした際には近況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動をもとに状態の変化を含め対応をたてている。月に開催のケアミーティングも活用しているが、対応が早くに必要な件は随時対応している。	利用者一人一人の思いは職員と1対1の場面となる入浴時、就寝前などに伺うことが多く、好きなこと、したいこと、昔のことなどを傾聴し、ケアプランにも盛り込んでいる。不穏な利用者にも上手に語り掛けることが上手な職員がいるなど、丁寧に思いを聞きながらの対応ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からは勿論、ご家族様やケアマネなどからの情報を利用させてもらっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランをもとにして支援を行っている。変更の際には必ずケアミーティングで意見を聞いて、職員一丸で関わられるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さまのプランの検討については必ずケアミーティングで職員に周知と検討を持ちかけている。また個人で感じていることも聞き出しより良いプラン作りを心がけている。	個別の担当制ではないことから全員でモニタリングし、毎月のケアミーティングで話し合っている。日常の介護でも申し送りノートに気の付いたことを記入し、プランに反映できるよう努めている。3か月ごとの見直しを基本にしているが、状態の変化が少ないため、家族の同意を得てプランの継続になることが多くなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用して、その都度共有を計っている。また職員間のラインも同じように活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の協力の下で実施している。不可能な際には施設で対応しているが、基本的には良い関わりの機会と考えており協力を依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍での影響で自粛しているが可能な限りで環境整備の準備をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ病院を利用して頂いている。必要に応じて主治医への手紙や同行を行っている。	多くの利用者がかかりつけ医としている国保診療所が隣接しており、利便性が高い。近況を報告する手紙を持参して受診している。同診療所の医師もユーモラスで話しやすく、適切な医療が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の定期訪問にて健康確認を行っている。必要に応じて処置も行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には情報提供をし、入院中は状態把握の為に医療機関との連携に努めている。また、退院後の支援方法を主治医やご家族様と相談・検討し、方針を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時の際にご家族様に説明をし「重度化・看取り」に関する同意書にサインを頂いている。ジョブメドレーでもターミナルケアについての研修を実施し、共有に努めている。	近年、看取りの実績は無いが、現在、看取りの対象に近い利用者が1名いる。家族には、介護度3を目安として特養への申し込みを提案している。アプリを活用した職員研修も実施しているが、万が一の際の、家族や医療機関と事業所との関係を密にして、万全の態勢で臨むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為地域住民参加での訓練はしていないが、年2回の訓練は計画している。非常食関連についても随時補充を確認しながら行っている。	年2回の避難訓練を実施しており、そのうち1回は夜間想定での訓練となっている。現在、非常階段が老朽化しており安全・安心な避難経路の確保が急務となっている。食料や日用品を備蓄しているが、停電を想定した照明や暖房に課題がある。ハザードマップによる危険箇所にはなっていないが、火災や地震に備えて、近隣の方の協力を得ることとしている。	避難経路や避難場所を再確認し、非常用電源、夜間照明器具等の確保、非常連絡訓練、非常持ち出しの点検など、予め不測の事態に備えておくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の想いを尊重し汲み取り、支援に努めている。また、声掛けや介助で不適切な支援が無いようにミーティング時や日々の業務の中で指導している。	利用者の思いを大切に、掃除や食事の手伝いなどに役割を持ってもらう事で、一つの生きがいに繋げている。本人がこれまで頑張ってきたことを傾聴すること、異性介助など不快に感じることを無いよう丁寧な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくを自己決定が出来る支援に努めている。また、想いを表現しにくい利用者様に対しては幾つかの選択ができる状況を準備し対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や気持ちを尊重し、職員本位の支援や介助にならないように心掛け支援している。また、権利擁護などの研修もジョブメドレーにて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様には衣類の選択をして頂いたり、毎日の整容で身だしなみの支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食材の下ごしらえをしたり、盛り付けや食器洗い・食器拭きなど家事にも参加して頂いている。また、行事等では地元のお店の協力を経ている。誕生会には好みのものを用意している。	2名のメニュー委員が献立を作成し、職員が交代で食事を作っている。彩りなどの盛り付けに工夫を凝らすなど、職員も同席して楽しい食事の時間になっている。好みのものは誕生会に出すこととし、要望が多かった餅や団子についても細心の注意を払いながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事摂取量を記録し、体調管理をしている。また、体調や状況に合わせて食事量や形態を工夫し対応している。必要に応じて補助食も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアへの声掛けや誘導を実施している。また、必要に応じて口腔ケア介助も実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存能力や状態を考慮しながら出来るだけトイレでの排泄を促している。また、訴えが無い利用者様に対しては定時誘導にて対応している。現在は全利用者様がトイレ利用で対応できている。	水分を1日1500cc以上摂ることとしており、トイレはチェック表を確認しながらの声掛け、誘導となっている。自立している利用者もあり、個々の状況に応じてプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品飲料や水を提供し便秘予防に努めている。水分は一日1500ml以上を心掛けている。また、毎日の排泄記録を参考にし、定期受診時に主治医に相談して下剤を処方して頂いたりと対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や気分、または入浴希望に柔軟に対応し実施している。また、状態に応じて洗身洗髪支援に努めたり、皮膚状態を確認し必要とされる処置にも対応している。現在は本人の強い希望で女性対応の方がおり、希望に沿って対応している。	月曜日から土曜日まで、主に午前中、週2回の入浴となっている。希望によって日曜日や午後の入浴にも柔軟に対応している。嫌がる利用者については、入浴日を代えたり、気分の良さそうな日にしたりと工夫している。また、異性介助への配慮も欠かさない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レク活動や家事など、日中活動を促し夜間は良眠出来るよう努めている。また、必要な場合にはご家族様・主治医に相談し眠剤を処方して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の効能を理解・把握し必要な場合は介助支援している。また、誤薬や飲み忘れが無いように服薬チェック表を活用し対応している。服薬ミスが生じた場合の対応順も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレク活動等に参加して頂き、その中で出来る事出来ない事を精査しながら、一人一人にあった生活支援に務めている。その際にトラブルが生じないように必ず職員は一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、全員での外出は自粛しているが、個別対応で施設周辺での散歩・買い物支援に努めている。できる部分で(通院時の余った時間など)計画を立てている。	コロナ禍で以前のような外出が困難なことから、天候の穏やかな日には周辺の散歩やバルコニーでの外気浴で気分転換を図っている。桜の時期にはドライブを実施したが、以後は対応に慎重になっている。現在は難しいが、今後、コロナ禍の状況を見ながら食料品の買い物の際に利用者と一緒に出かけることも考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の預り金制度は廃止しており、必要される物がある場合にはご家族様に対応して頂いたり、職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話に対して強い執着を持っている方がおり、存在を必要以上に公にしていない。要望があれば職員が連絡する運びになっている。必要時にはタブレットで個室で対応している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいたう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダやホール内にお花のプランターを設置し鑑賞や手入れをして頂いたり、ホール内には季節を感じる装飾を施している。また、カーテンやエアコンなどで光量や室温を調整し、過ごしやすい環境整備支援に努めている。	日中を過ごすことの多いホールには、テーブルやソファ、テレビなどが設置され、エアコンやファンヒーターなどで温度、湿度などが整えられており、明るく快適な環境が保たれている。コルクボードにはイベント・行事の写真等が貼られ、季節に応じた物が飾られるなど居心地の良い場所が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールなど数か所にソファを設置したり、ベランダにも椅子を設置しお好みの場所で過ごして頂けるよう工夫している。また談話スペースも新たに設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう出来る限りの範囲でご本人の意向に任せている。また、エアコンやカーテンでの調整で居室内環境を支援している。必要時にはご家族様と相談しながら、一時的な管理保管や必要物の追加など対応している。	ダンスとクローゼットが一体となった家具、ベッドが備え付けであり、利用者はそれぞれがテレビや電気毛布、家族の写真や位牌などを持ち込んでいる。エアコンやカーテンの開け閉めで室内環境を調節できており、安全で安心して暮らせる環境ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況や状態に応じて環境整備に努め、申し送りやミーティング等で検討・精査し施設内のリスクマネジメントを実施している。検討後は直ぐに申し送りノートや職員ラインで周知している。		